

府立中津支援学校 平成30年度「学校運営協議会」議事録（第3回）

日 時	平成31年2月1日（金） 10:00～12:10			
出席者	協議会委員	所属等	学校事務局	校務分掌等
	五石 敬路	大阪市立大学大学院准教授	川田 和子	校長
	田中 博之	大阪整肢学院 院長	井筒 文彦	教頭
	花咲 典之	中津連合振興町会会長	水迫 英紀	事務長
	岡 博文	新梅田ソライオンズクラブ 会長	川村 弘之	首席
	米田 秀	中津更生園施設長	山中 有美子	首席代行
	小林 信恵	森ノ宮医療大学 特任教授	橋本 和枝	小学部主事
			廣瀬 めぐみ	中学部主事
			清藤 和典	高等部主事
		木下 陽子	進路指導部長	
傍聴人				
おもな テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の取り組み ・学校自己診断アンケートについて ・教育課程検討の進捗状況について ・平成30年度学校経営計画の評価及び平成31(2019)年度学校経営計画（案）について ・保護者からの意見書等 			
協議内容 の概略	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展見学 ・各学部（小学部・中学部・高等部）の取り組み紹介 ・学校自己診断アンケートの結果について ・教育課程検討の進捗状況について ・平成30年度学校経営計画の評価及び平成31(2019)年度学校経営計画（案）について 			
提言内容・ 改善方策	<p>意見・提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度学校経営計画及び学校評価のめざす学校像については、「家族と離れて大阪整肢学院で生活している」の部分が不要ではという意見も出たが、大阪整肢学院に生活している子ども達が通学する学校であることが、中津支援学校の特徴であるとして、委員からの賛同を得た。4項目について協議し、「府民ファーストを信条に」を削除し、「公（おおやけ）に奉仕する組織の構成者としての教職員の専門性・支援力向上」とした。 ・在学中より社会に出てからのほうが長い。社会に出る前までに学校で経験を積み重ねて、社会へのイメージをふくらませ、道筋をつけていくことが大切である。卒業後にどのような生活をするのかイメージして教育していかないと、卒業後本人が苦勞する。自立という意味も健常児とは異なってくるので、学校でも社会へのイメージをふくらませる取り組みをおこなってほしい。 ・今年度から始めた、学院リハビリテーション部と学校が協力して、「自立活動」の質と教員の専門性を向上させる取り組みを、次年度も推進する。 ・学校の教職員と大阪整肢学院の職員の認識の乖離を埋めるためにも、職員同士が、学校での困り感、学院での困り感を話し合う場を設定していく。 			